

Q 7 学級経営における児童・生徒指導の進め方について教えてほしい。

A : 児童・生徒指導は、学校の全教職員によって進められるべきものであるが、学級は、児童生徒の学校生活の基盤をなすものであるから、学級担任の教員が児童・生徒指導に果たす役割はとても重要である。

以下、学級経営における児童・生徒指導の進め方について述べる。詳しい内容については、『[生徒指導提要](#)』（2010.3 文部科学省）「第6章 生徒指導の進め方 第4節 学級担任・ホームルーム担任の指導」を、学級担任が行う教育相談については、「第5章 教育相談 第3節 教育相談の進め方 2 学級担任・ホームルーム担任が行う教育相談」を参照されたい。

また、学級経営の充実を図るために、学びに向かう集団づくりに努めることが重要である。これについては、『[学業指導](#)』[教職員用リーフレット](#)を活用されたい。

### 1 児童生徒理解の深化

学級経営と児童・生徒指導を進める上でまず重要なことは、確かな児童生徒理解である。

- ・学級に多様な児童生徒がいることを前提に、学級での児童生徒との人間的な触れ合い、きめ細かい観察や面接、保護者との対話を深め、一人一人の児童生徒を客観的かつ総合的に理解していく。
- ・児童生徒理解を深めるためには、他の教職員との情報交換や連携を深め、児童生徒に関する幅広い情報の収集と多面的な理解に努める。

児童生徒理解の対象

能力の問題（身体的な能力、知的な能力、学力など） 性格的な特徴  
興味、要求、悩み 交友関係 家庭環境、生育歴など

### 2 学級集団の人間関係づくり

学級経営では、多様な個性や様々な人間関係を見すえながら、望ましい集団・人間関係づくりを進めていく学級担任の適切な指導が求められる。

- ・児童生徒が、自他の個性を尊重し、互いの身になって考え、相手の良さを見付けようと努める集団、互いに協力し合い、主体的によりよい人間関係を形成していこうとする集団づくりに努める。
- ・児童生徒のコミュニケーション能力を高め、開かれた人間関係づくりを進める。

### 3 学級における児童・生徒指導の取組

#### (1) 学級担任が行う児童・生徒指導の基本

##### 毅然とした指導

毅然とした児童・生徒指導とは、学校生活に起こる様々な問題について、その行為の過ちや責任をしっかりと自覚させ、健全な成長が図られるよう温かく粘り強く指導していくことである。

- ・日常の問題行動からしっかりと注意するなど、その行為の意味やそれがもたらす結果や責任などを理解させる毅然とした指導を行う。
- ・「社会で許されない行為は、子どもでも許されない」といった学校全体の基本的な指導方針の下、学級でも児童生徒の発達の段階を踏まえて児童・生徒指導の方針を明確に示し、児童生徒や保護者に対して「社会の一員」としての責任と義務の大切さを伝えていく。

## 自己指導能力の育成

問題が起こる前に、日頃から児童生徒の自己理解や社会認識を深め、自己指導能力を培う児童・生徒指導の充実を図ることが必要である。

- ・児童生徒の自己指導能力を高めていくような、適切な情報提供や案内・説明、活動体験などを、主に集団指導の場面で行う。
- ・学年の担任の連携協力はもとより、児童・生徒指導部をはじめ、他の校務分掌との連携協力を深めていく。

### (2) 学級担任が行う教育相談

- ・日常の学校生活における児童生徒の不安や悩み、訴えに耳を傾けていく。
- ・計画的にまた随時教育相談の機会を設け、児童生徒の学習や生活上の様々な不安や保護者の訴えに向き合う。
- ・相談の内容が深刻な場合やより専門的な援助や助言などが求められる場合は、学校の教職員、スクールカウンセラーや外部の専門機関との連携を図る。

### (3) 学級担任が行う児童・生徒指導

- 【小学校では】 - 学級担任の授業の在り方が児童指導と深く関わっている -
- ・個に応じた指導やきめ細かな指導に配慮し、わかる授業を通して児童一人一人が学ぶ意欲や学習への成就感をもてるよう、魅力ある授業や学級づくりを推進する。
  - ・他の教員の助言や協力を得て、指導技術の向上、指導方法や指導体制などの工夫改善を図り、日頃の教育活動を一層充実させる。
- 【中学校では】
- ・学級で行う教育活動について、生徒指導の充実の観点から授業の在り方を工夫していく。
  - ・社会的自立を目指す主体としての自覚と責任感を高め、社会性の一層の伸長を図る。
- 【小中学校共通】
- ・児童生徒の発達の段階を踏まえて社会性を育む教育活動を進めていく。
  - ・自分の意見や気持ちなどを言葉で適切に表現できるようにするとともに、お互いの意思と心を通い合わせるコミュニケーションの取り方を具体的に学ばせる。(児童生徒の実態に応じ、人間関係づくり、社会的スキルの習得などに取り組む。)

## 4 開かれた学級経営の推進

学級担任の教員が児童・生徒指導において担う役割や責任を強く考えるあまり、様々な問題を自分だけで抱え込もうとしたり、誤っていわゆる学級王国的な考えに陥るようなことがあったりしてはならない。

- ・指導する担任が開かれた心もち、学級経営に取り組む。
- ・校長や教頭の指導の下、学年の教員や児童指導主任・生徒指導主事、さらに養護教諭、栄養教諭、スクールカウンセラーなど他の教職員と連携しながら開かれた学級経営を進める。
- ・家庭や地域社会との連携を密にする。特に、保護者との間で、学級通信や学年通信、保護者会や家庭訪問などによる相互の交流を通して、児童生徒理解、児童生徒に対する指導の在り方について共通理解を深める。